

都立大田桜台高等学校 グランドデザイン

【生徒／学校の現状】
 おとなしく真面目で、素直な生徒が多い。
 一部の教科に苦手意識があり、基礎学力が定着していないことがある。

反復の学習を行うことで、知識の定着を図っている。
 各教科において、言語能力を中心にコミュニケーション力の育成を図り、国際理解教育を推進している。
 3年間を通してキャリア教育を行っている。
 大学進学率が約60%となっている。

【予想される社会の変化】
 グローバル社会となっている。
 現在の職業の半分はAIにとってかわられる。
 知識の量ではなく、知識を活用し生き抜く力が求められる。

【教育目標】
 思いやりの心をもつ人格を育む。
 国際人として活躍するための基礎学力、文化的教養を習得させる。
 ビジネス社会に貢献できる職業人としての資質・能力を育成する。

【目指すべき生徒の将来像（20年後の生徒の姿など）】
 基礎学力と教養を身につけ、グローバル社会で、主体的、協同的に問題を解決し、予測不能な時代を生き抜くことのできる人材

【育成すべき資質・能力】
 3つの柱「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性」を育成するために、本校では「言語能力」「情報活用能力」「問題発見能力・解決能力」の育成、さらには専門的で高度な資格の取得を学習の基盤として位置付ける。

具体的には「読解力・理解力」「基礎学力に加え高度な専門知識・技術」「グローバル社会で活かせるコミュニケーション力」「問題を発見し、集団で解決できる主体性、協調性」を指す。

【育成すべき資質・能力に基づくルーブリック】

育成すべき資質・能力	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	目指すべき 生徒の将来像
読解力・理解力	教員の補助がある状態で読解・理解しようとする	教員の補助がある状態で主体的に読解・理解することができる	自らの力で正確に読解・理解しようと努力できる	自らの力で様々な角度からの読解・理解ができる	読解・理解から協働で様々な見解をまとめ上げることができる	
専門知識・技術	教員の補助がある状態で基礎的な検定・資格を取得しようとする	教員の補助がある状態で基礎的な検定・資格が取得できる	自らの力で高度な検定・資格を取得しようと努力できる	自らの力で高度な検定・資格を取得できる	高度な検定・資格を取得しつつ、周囲への指導ができる	
コミュニケーション力	内容を理解し、教員の指導のもとで発言しようとする	内容を理解し、教員の指導のもとで自発的に発言ができる	自発的かつ主体的に要点をおさえた発言ができる	自発的かつ主体的に要点をおさえた討論ができる	教員の指導がない状態でも討論等ができ、まとめ上げることができる	
問題発見能力	教員の提示、補助がある状態で問題点を考えようとする	教員の提示、補助がある状態で問題点を発見することができる	自らの力で問題点を考え、発見しようと努力できる	自らの力で問題点を考え、発見することができる	討論等の場で意見を集約し、的確な問題点を捉えることができる	
問題解決能力	教員の補助がある状態で問題を解決しようとする	教員の補助がある状態で問題に対しての解答を見つけ出すことができる	自らの力で問題を解決しようと努力できる	問題に対しての解答を見つけ出すことができる	集団をまとめ上げ、チームワークを活かして問題を解決できる	
【参考】	○教員の指導あり ○努力している状態	○教員の指導あり ○結果が出せる状態	○教員の指導なし ○努力している状態	○教員の指導なし ○結果が出せる状態	○集団の中でリーダーシップを発揮できる状態	

※各校で、「資質・能力」の数や「レベル」の段階数は変更する。